

## 新しい水田農業基本政策

### ～麦・大豆の品質と生産性向上のために～

平成12年度からの新しい水田農業基本政策が、農林水産省から「水田を中心とした土地利用型農業活性化対策大綱」として公表された。

今回の対策が、いままでと大きくちがうのは、米をつくらない「転作」から、米の作付けをしない水田を有効に活用して、品質・生産性を向上させながら、麦・大豆・飼料作物などを「本作」として生産することになった点である。

このため、水田での麦・大豆・飼料作物などの生産を、品質・生産性を向上させながら定着・拡大していく新しい助成システムが決められた。

それには、基本的な栽培技術の実施が要件化されている。

具体的には、地域ぐるみの麦・大豆・飼料作物の主産地形成に向けた取り組みのなかで、基本的な栽培技術の実施など（飼料作物については、さらに、畜産農家との利用協定の締結などにより確実な利用が見込まれること）の技術要件を6個以上満たして生産する場合に10a当たり4万円が基本助成される(表の○印)。

そのなかで、土づくりが重要な技術対策となっており、石灰窒素、ヨウリンの使用がすすめられている(p.24 土づくりの細部運用参照)。

#### ○技術要件の内容(作物名:麦)

区分	技術の名称	区分	技術の名称
排水対策	○営農排水 ○弾丸暗きよの施工	効率的作業体系	○複合作業機による耕起・播種・施肥同時作業体系 ○不耕起播種技術 ○乗用管理機による管理技術 ○無人ヘリによる高能率防除技術 ○コンバイン(普通型)収穫作業技術
	土づくり		○土壤診断にもとづく施肥設計 ○土壤改良資材の投入による土壤改良技術 ○堆肥施用による地力増進
適正管理		○踏圧 ○病虫害防除技術 ○培土または土入れ	地域特認(例)

#### ○技術要件の内容(作物名:大豆)

区分	技術の名称	区分	技術の名称
排水対策	○営農排水 ○弾丸暗きよの施工	効率的作業体系	○複合作業機による耕起・播種・施肥同時作業体系 ○不耕起播種技術 ○乗用管理機による管理技術 ○無人ヘリによる高能率防除技術 ○フェロモントラップによる発生予察・誘殺 ○コンバイン(普通型)収穫作業技術
	土づくり		○土壤診断にもとづく施肥設計 ○土壤改良資材の投入による土壤改良技術 ○堆肥施用による地力増進
適正管理		○適正播種量の確保 ○病虫害防除技術 ○中耕・培土	地域特認(例)

#### ○技術要件の内容(作物名:飼料作物)

区分	技術の名称	区分	技術の名称
排水	○営農排水	効率的	○複合作業機による耕起・播種・施肥

対 策	○弾丸暗きよの施工	作 業 体 系	同時作業体系 ○不耕起播種技術 (シードペレットなど) O W C S用稲の直播技術 ○飼料作物による土壌浄化技術 ○放牧技術 ○湿田に適した収穫・調製技術
土 づ り	○土壌診断にもとづく施肥設計  ○土壌改良資材の投入による 土壌改良技術  ○堆肥施用による地力増進		
適 正 管 理	○適正播種量の確保 ○病虫害防除技術 ○雑草防除 ○掃除刈など生育調整技術	収量と 品質の 向上・ 安定化	○優良草種・品種の導入 ○ドリル播など密植栽培技術 ○生育ステージにもとづく施肥 ○T D N含量などを踏まえた適期収穫 ○青刈飼料作物などの多回収穫技術
		地 域 特 認 (例)	○高能率な収穫機械作業 (ハーベスターなど) ○高品質予乾技術 (モアコンディショナーなど) ○鳥獣害防止技術  など

●土づくりの細部運用(麦・大豆・飼料作物をまとめたもの)

- 土づくりはつぎに掲げる事項を満たすものとする。
- ① 土壌診断は対象作物の播種前に実施する。土壌サンプリングは原則として各圃場ごとにおこなうが、地形、土地の来歴に応じサンプリング密度、点数を調整する。診断項目は、pH、有効態りん酸、置換性石灰、置換性苦土などを基本とし、地域ごとに必要な項目を追加する。
- ② 土壌診断の結果にもとづく施肥設計をおこない、設計どおりに施肥を実施する。
  - 土壌改良技術はつぎのいずれかを実施する。
  - ① 石灰などの施用による酸度矯正
  - ② 熔成りん肥の施用によるりん酸補給
  - ③ 石灰窒素などの施用による、稲わら、麦稈すき込み時の窒素飢餓の回避(麦・大豆)
  - 堆肥の施用により、地力の向上と物理性の改善をおこなう。  
未完熟の稲わらなどのすき込みは対象外とする(麦)。  
未完熟の堆肥の施用は対象外とする(大豆)。
- ④ 石灰窒素などの施用(計画的な放牧による施肥を含む)による窒素補給(飼料作物)
  - 堆きゅう肥の施用により、地力の向上と物理性の改善をおこなう。  
液肥は含むが、未完熟の稲わらなどのすき込みは対象外とする(飼料作物)。